

今、求められる 企業統治



コーポレートガバナンスは、一般には日本語では「企業統治」と呼称されています。企業が株主のみならず顧客や従業員、地域社会などの立場を踏まえた上で、透明で公正な意思決定や事業運営を行うための仕組みを意味しています。コーポレートガバナンスというと、上場企業や大企業が考えるべき問題のように思われていますが、社会から企業に向けられる目は年々厳しさを増しています。中小企業においても社会的要請にこたえて企業統治を進めていくことが求められています。

本号では「今、求められる企業統治」をテーマとして特集を組み、「社外取締役のガバナンス」「パーパス経営と長期株主：日本型モデル2.0に向けて」「中小企業でも無視できないコーポレートガバナンス」の3本の論文を取りあげました。

社外取締役のガバナンス

齋藤 卓爾

01 ●

パーパス経営と長期株主： 日本型モデル2.0に向けて

宮島 英昭

02 ●

中小企業でも無視できない コーポレートガバナンス

前蘭 浩也

03 ●